

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 赤穂高等学校 定時制 】

1 実践テーマ	I ・ II <input checked="" type="checkbox"/> III ・ IV <input checked="" type="checkbox"/> V (複数選択可)
2 実施対象者	定時制全校生徒 38人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (パラスポーツ (車いすバスケ) 体験講座) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラスポーツ体験やアスリートの講話を聞き、スポーツを「する、見る、知る、支える」ことを学び豊かな心を育む。特に今回は選手（講師）の体験談を聞いてパラスポーツに関心を持つ。
5 取組内容	・事前学習として Google Classroom を用いてパラスポーツ独自のルールについて学んだ。 最初に自己紹介で障がいのを負った理由や取り組んでいるパラスポーツについての説明を受けた。ケガ、病気など理由は様々であった。



車いすラグビーのボールの形がなぜ丸いのか？という質問を生徒に投げかけ考えさせた。具体的な例を上げ、いろんな障がいの人でも車椅子ラグビーができるように考えられているという説明を聞いた。

一般の車いすと競技用の車いすの違いについて説明があり、車いすには競技の特性、用途にあわせて様々な工夫があることを学んだ。また、車いすバスケットゲームを通してパラスポーツの面白さ、難しさを知る貴重な体験をすることができた。





最後に3人の講師がそれぞれ分かれて、体験談を語ってもらい対話形式で質疑応答の時間があった。「今の生活で不便なことは?」「これからチャレンジしたいことは」などの質問があり、「だれもが暮らしやすく、だれもが楽しく暮らせる社会がこれからは必要」というメッセージがあった。また、体育館にタイヤ痕を残さないための素材がタイヤには施されていて、それについての理解が乏しいこと、練習場所の確保や普及などの弊害になっているという話もあった。正しい知識を得るだけでもインクルーシブな教育につながると実感した。

	
<p>6 主な成果</p>	<p>事前にパラスポーツに関する多くの情報を流したりしたがあまり興味をひくことができなかったが、体験中の生徒の表情をみると、実際に車椅子体験ができた事やパラスポーツ選手と交流して、「他人と違いがあって当たり前。その違いをもっと楽しんでいい」といわれて、生徒一人ひとりが充実感、満足感を味わうことができた。この経験を通して事後指導で身近な学校生活からお互いを尊重できるように「どう工夫すればみんなが過ごしやすいか」という事を改めて考えさせていきたい。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>今回は保護者等の参加を制限し、生徒のみの体験会の形であったが、保護者や地域の方々にも参加してもらえばさらにオリパラムーブメントに貢献できたのではないかと思った。生徒・職員とも大変有意義なパラスポーツ体験になった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>地元のクラブや地元の選手などもっと自分たちにとって身近な方々にお願いできれば、興味関心がさらに高まると感じた。次はぜひ長野県のオリパラアスリートの方に来ていただき体験会を企画できればと思った。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>事前学習を Googleclassroom で行うことができたのはこの状況でプラスに働いた。しかし、まったく興味のない生徒にとって自主的に事前学習を Googleclassroom で行うのは難しいと感じた。</p> <p>実際に体験することで生徒の表情が豊かになるのが分かった。今後も多くの実体験ができる授業や行事を企画していきたい。</p>